

門司港地域複合公共施設新築工事基本設計概要版



【門司港駅からみた正面イメージ】

1. 門司港駅から広がる新たなにぎわい

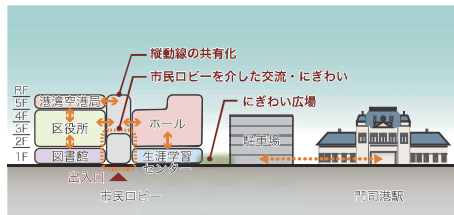
- ・門司港駅から人の流れを引き込むように、複合公共施設棟の導入部分に「にぎわい広場」を設け、棧橋通りにつながる雨に濡れない通り道＝「栄町銀天街への道」を設けます。
- ・「にぎわい広場」は、市民が気軽に活動できるパブリックスペースとし、複合公共施設へと人を導きます。
- ・「栄町銀天街への道」に面して、市民ロビー、生涯学習センター、図書館を配置することで、市民の活動があふれ、にぎわいが連続し、栄町銀天街までつながる「新たな人の流れ」を生み出します。
- ・「にぎわい広場」を起点に、鉄道記念館へつながる「鉄道記念館への道」を整備し、「栄町銀天街への道」、「門司港レトロへの道」と合わせて、駅前の回遊性を活性化させます。



【にぎわいが広がり、駅前の回遊性を活性化させる配置計画】

2. にぎわいの拠点を集約した利便性の高い施設

- ・観光資源として価値の高い門司港駅に隣接する敷地に、まちに新たなにぎわいをもたらす市民利用施設等を集約した複合公共施設棟を配置します。
- ・5つの機能を集約した施設とすることで、各機能間での連携が生まれ、施設の利用率を高めます。
- ・ホワイエ、会議室、エレベーター等の縦動線、トイレ等の共用化を図り、利便性、経済性の高い施設とします。
- ・各部門へのアプローチはメイン入口に面した市民ロビーとすることで、利用者の交流を促し、にぎわいを醸成します。
- ・駐車場棟は門司港駅に隣接して配置することで、複合公共施設利用者・駅利用者双方の利便性を高めます。



【5つの機能を集約することで生まれる連携イメージ】

3. 門司港駅前のまちなみに馴染む景観づくり

- ・門司港レトロ地区を細やかな視点で分析し、分散する歴史的建造物の外観をエリア毎に分けた視点でとらえ、景観を読み解きます。
- ・本施設は、計画敷地が面する棧橋通り沿いの歴史的建造物にあわせた色調とすることで、棧橋通りのまちなみに馴染んだ景観をつくります。
- ・門司港駅から駅前ロータリーに沿って、門司区役所に見られる水平ラインをモチーフとした＝「obi」をデザインコードとした景観を展開します。
- ・obiは門司港駅にみられる色調をベースとすることで、既存駅舎と調和するデザインとします。
- ・ボリュームのあるフライタワーはRC打放しの落ち着いた色調とすることで、背面の三角山や風師山の緑を引き立て、圧迫感を低減します。



【門司区役所】 【門司港駅】 【北九州銀行門司支店】
【門司郵便ビル】 【三角山・風師山】

4. 環境にやさしく、省エネルギーを推進する工夫

- ・建物各階にまわる「obi」は建物の庇となっており、日射を遮る環境装置としても機能します。
- ・庁舎部門中央に光庭を設け、自然採光・通風を積極的に活用し、建物両端部分の階段はエコシャフトとして自然換気を促進します。
- ・敷地は四方面からの卓越風により、積極的に外気を取りこむことで、吹抜の排気効果とあわせ、感染症対策にも有効で十分な換気回数を確保します。
- ・CO2の固定化に有効な木材を内装に採用します。
- ・外壁および屋根の高断熱化、開口部へのペアガラスの採用により、夏季の日射熱の侵入を抑制します。
- ・執務室は組織改編等による変更に対応できるオープン形式のオフィスレイアウトを採用します。

- 電気
 - ・エコケーブルの採用により、環境負荷低減
 - ・高効率変圧器の採用
 - ・自動力率調整による電力の有効活用
 - ・LED照明の採用（一般照明・非常照明・誘導灯）
 - ・トイレや更衣室の照明は人感センサーを採用
 - ・太陽光発電設備を採用、自然エネルギーの活用
- 機械
 - ・高効率空調機の採用
 - ・全熱交換器による外気負荷の低減
 - ・節節水型器具の採用による水道使用量の削減

【LCCO2削減のための手法】